

地方創生「東通村まち・ひと・しごと創生総合戦略」村民ワークショップ 実施報告

1. 開催日時・場所・参加者

(1) 日時：令和元年11月9日（土）10：00～12：00

場所：東通村庁舎4階大会議室

参加者：31名（6班）

(2) 日時：令和元年11月9日（土）15：00～17：00

場所：入口かしわの館

参加者：14名（3班）

2. 講師

講師：NPO 法人ローカルグランドデザイン 理事 坂本 誠 氏

3. 内容

(1) あいさつ

東通村経営企画課 課長 菊池敢世

(2) 東通村まち・ひと・しごと創生総合戦略 人口ビジョン・総合戦略（説明）【15分】

東通村経営企画課 地域戦略グループ 西谷聖子

(3) 講演【30分】

演題：「人と人とのつながりから生まれるこれからのむらづくり

～村の創生に向けてのヒント～」

講師：NPO 法人ローカルグランドデザイン 理事 坂本 誠 氏

(4) ワークショップ【75分】

～私たちが描く東通村の未来・私たちができること～

4. ワークショップ意見

(1) 1-1班（庁舎）テーマ①：人や企業を村に呼び込むための取組みについて

- ・産業の強みは東通牛であり、東通牛の生産頭数を増やし、東通牛を食べられるところをつくり、メニュー開発をする
- ・村特産品を売る店を増やす
- ・定住促進について、六戸町で実施しているような新築助成金で人口増が見込める
- ・空き家を活用することにより、移住、定住が促進できる
- ・買い物をするところがないので、コンビニや道の駅があると良い

(2) 1-2班 (庁舎) テーマ①：人や企業を村に呼び込むための取組みについて

- ・強みは、食材が豊富、土地が広い、災害が少ないなど
- ・弱みは、集落が点在しているところ、働くところがない
- ・全集落を統合して一つにすると、店ができ、企業が参入し、雇用が生まれる
- ・子どもが運営する企業ができることで定住し、村外からも子どもが集まってくる
- ・第1次産業から第2次産業、6次産業につなげる
- ・オフィス、企業が少ないので、シェアオフィスをつくる
- ・漁業や農業を会社（法人化）する
- ・役場の前の道路を国道にすることで、周辺に店や企業ができる

(3) 2-1班 (庁舎) テーマ②：村内の産業や経済を活性化するための取組みについて

- ・強みは、漁業が盛んで水産資源が豊富、東通牛、エネルギー施設がある
- ・弱みは、お店や宿が少ない、第一次産業が衰退してきている、工場や企業が少なく、給料が安い
- ・対策としては、水産物加工場をつくり、加工品開発をする
- ・廃校舎や空き家を宿として利活用し、ツアー客の宿とする

(4) 2-2班 (庁舎) テーマ②：村内の産業や経済を活性化するための取組みについて

- ・第一次産業は強いが、後継者が少ない
- ・産品を加工、販売するところがない
- ・企業に補助やアドバイスをし、販売、広報に力を入れる。

(5) 3-1班 (庁舎) テーマ③：村民が元気に暮らし続けて行くための取組みについて

- ・強みは、医療、介護施設がある、教育環境が整っている、医療支援がある
- ・高齢者の運転事故が社会問題になっているが、運転免許証を返納すると不便になり生活の不安がある
- ・高齢化による介護の負担と不安、独居老人の増加が弱み
- ・老人のシェアハウスをすることにより、生活費を抑えられ、安心感もある
- ・タクシーやバスの助成をする
- ・自動車の運転免許を返納しても、農業が続けられるように、トラクターの免許は使えるようにする

(6) 3-2班 (庁舎) テーマ③：村民が元気に暮らし続けて行くための取組みについて

- ・強みは、教育の充実、税金が安い、自然が豊か、子育て支援の充実
- ・弱みは、子どもが外で遊ぶところが少ない、住民の結束力がない、街路灯が暗い、飲み場が少ない、何をすることも送迎が必要、電車がいないところ
- ・対策として、公園、スポーツジムをつくる、村民体育祭の復活、釣りイベントの開催、乗合タクシーの導入をする

(7) 1班 (入口) テーマ①：人や企業を村に呼び込むための取組みについて

- ・強みは、寒立馬、ホタテ等の海産物、村内無料バス（診療所送迎バス）、北区との交流事業、訪問診療があるところ
- ・弱みは、働ける場所がない、観光客が観るだけで帰ってしまう、住宅地に店がない、車がないと生活が困難なところ
- ・対策案として、コンビニの誘致、道の駅の創設、移動販売やコミュニティバスの運営、企業誘致のために土地を無償で提供する

(8) 2班 (入口) テーマ②：村内の産業や経済を活性化するための取組みについて

- ・強みは、東通蕎麦、米、ホタテなど
- ・弱みは、雇用が生まれる加工場がない、漁獲量の減少、後継者不足、
- ・対策案は、加工場をつくる、ウニやホヤの養殖をする
- ・漁業や農業を体験する場をつくり、嫁に来てもらうことにもつながる

(9) 3班 (入口) テーマ③：村民が元気に暮らし続けて行くための取組みについて

- ・強みは、子どもの医療費助成がある、高校生の通学補助がある、防災体制がとれている、土地が広い、近所で仲がいいところ
- ・弱みは、企業や働く場が少ない、子どもを遊ばせる場所が少ない、お年寄りの買い物困難
- ・働く場所が少ないことから、企業誘致や、海産物の養殖事業を始め、安定した収入を得る
- ・お年寄りの買い物困難に対して、お買い物バスがあると良い、それにより、お年寄りの交流の場が増え、体を動かすきっかけとなり運動不足の解消にもつながる

5. 講評 (NPO 法人ローカルブランドデザイン 理事 坂本 誠 氏)

今回のワークショップでは、女性や若者の参加者に大勢参加いただいたおかげで、子育てや暮らしに関する悩みや、若者ならではの視点にもとづいた提案が多数ありました。参加の促進に努めた事務局の尽力の賜物だと考えます。

ワークショップで出された意見をふまえて、以下のように私見をまとめました。

<産業振興について>

①「6次産業化」の必要性

- ・ワークショップでは、村の強みとして1次産品の豊富さ（東通牛・米・そばなど農産物、ホタテなど海産物）が、一方で弱みとして加工・販売力の弱さが指摘されました。このことから、村のこれからの課題は「6次産業化」であることが導かれます。

②法人の育成

- ・6次産業化に際しては、外部資本の導入に比べて即効性には欠けますが、村内資本の法人を育成することが望ましいと考えられます。ワークショップでも、地元資本の法人が育っていないことに対する問題意識が示されました。
- ・海産物の加工・販売に際しては各漁業協同組合の支援。あるいは漁業協同組合間の連携による加工・販売体制の強化が必要だと考えられます。
- ・農産物の加工・販売に際しては、産業振興公社のテコ入れが必要です。それとともに、農業に関しては生産現場の後継者不足も課題となっており、まだ村内で一部にとどまっている集落営農法人の育成も図っていく必要があります。

③6次産業化の一環としての観光の育成

- ・そして、村の産品を生かした第2次産業、第3次産業の育成を行う延長線上に観光を位置づけていくことが望ましいと考えられます。観光振興に関して、今回のワークショップから導きだされたキーワードは「体験」です。
- ・農業や漁業の体験はもちろん、食も「体験」として捉えることができるでしょう。都会や他の地方では味わえない村ならではの産品を村で食べる機会が設けられれば、それは立派な「体験」です。鮮度が落ちやすく村内でしか食べられないもの、時期が限られるものが、逆に「体験」として観光の素材になりえます。
- ・農業や漁業の体験ということでは、ワーキングホリデーの誘致も手法になりえます。関係人口の増加、労働力の補充ばかりでなく、ワークショップでも指摘があったように、結婚の促進にも寄与すると考えられます（“西米良型ワーキングホリデー”を参照）

<くらし>

①子育て

- ・村の強みとして、教育施設や教育支援策は充実しているとの声が多数挙げられましたが、一方で帰宅後（教育施設以外）の子どもの居場所づくりが課題として示されました。子どもを安心して遊ばせることのできる場所がない、村内が広いので同級生と遊ぼうにも親が連れて行かなければならないなどの指摘です。昔に比べて熊の危険も増え、保護者が安心して子どもを外で遊ばせることができなくなったという事情もあるようです。冬季のことも考えて、屋内型の遊戯施設を整備するなどの必要があるのではないかと推察されます。
- ・また、遊戯施設の整備とミニスーパーあるいはコンビニの複合施設を整備する方法もあるのではないのでしょうか。遊戯施設と複合した商業施設であれば、子育て世代の集客が見込めますので、事業者も誘致しやすくなると考えられます。

②高齢者

- ・村での生活には自動車が必須ではあるけれども、高齢になっても運転をし続けていくことには不安があるといった、ジレンマを抱えている高齢者の存在がワークショップを通じてあらためて確認されました。今回のワークショップに参加された高齢者は比較的元気な方々ですが、そうではない方もいらっしゃることをふまえて今後の対策を検討する必要があります。すなわち若い人を増やすだけでなく、高齢者が村内でくらしつづけられる環境づくりの必要性です。
- ・たとえば、ワークショップで提案されたシェアハウスの構想は検討に値するのではないかと考えられます。CCRC (Continuing care retirement communities in the United States) は都会の高齢者を地域に誘致にするための手法として喧伝されましたが、村内の高齢者が村内でくらしつづけられるための手法として検討してみてもよいのではないのでしょうか。